

せつつ うたがき
撰津の歌垣 (撰津国風土記 逸文)

撰津国風土記曰 雄伴郡 波比具利岡
此岡西 有歌垣山
昔者 男女集登此上 常為歌垣 因以為名

【書き下し文】

撰津の国風土記に曰ふ 雄伴の郡(には) 波比具利の岡(があつて)
此岡の西に歌垣山あり

昔者 男女、集ひて此上に登る 常に歌垣を為り

因りて以ちて名とせり

【解説】

撰津の歌垣に歌が残っていないのは残念である。風土記の記述は、
右の書き下し文を読めば、更に現代語訳は不要かも知れぬ。
さて、建国統治の神話は、天孫降臨と子孫繁栄の二つを要する。

後者において、伊邪那岐命は古事記で、

然らば、吾と汝と是の天之御柱を歩き廻り逢ひて、

美斗能麻具波比 為な と詔りたまひ

と書かれているのは、諸兄がよく知る神話の出来事であろう。



美斗能は、美||御、斗||戸 能||の、であり、各々、御||神聖な、
戸||先端または入口、の||何々の、を意味する。従つて「御戸」
は、神聖なる男神の陰部先端、神聖なる女神の陰部入口を指す。
麻具波比とは、互いに交叉し合わせる、性交を指す言葉である。

風土記の「波比具利」は、「利具波比」の倒置文字である。今日では「まぐわい」は「目合」と書く。目を合わせて愛情を知らせる(広辞苑)、粋な当て字だ。古事記に、優しい記載がある。

吾、汝に目合せむと欲ふは、いかに

撰津国風土記の「歌垣山」の紹介文は、こうなる。

撰津国の雄伴郡には、「まぐわいの岡」と云う由緒ある岡があり、
この岡の西に歌垣山が有るのです。昔しから、この山に登ろうと、
若い男女が集まってきた、しよつちゅう歌垣が行われます。
それに因んで、この山を歌垣山と云うのです。

歌垣山は、今の大阪府能勢町にある。

令和五年三月十四日

大中臣正比呂 拙訳